

# 一貫教育校の広場

## 即効性のない学びを

● 高等学校 教諭 佐々木貴久

外国語学習者は、できる限り効率的に目標言語を使えるようになりたいと考えている。言語習得研究者も、効果的な方法を求めて研究を進めている。一方で、言語能力は必ずしも直線的に発達していくわけではない。すなわち、時間の経過とともに言語使用の正確さが単純に増していくのではなく、一時的に正確さが落ちた後、再び正確さが増していくという現象（U字型発達曲線などと呼ばれる）があることも忘れてはいけない。なぜなら新たな言語形式に出会ったのち正確に運用できるまでには、対象となる言語形式に数多く触れる中で、試行錯誤・分析・整理する過程が必要だからである（和泉、2016<sup>\*</sup>に詳しい）。このことは何も言語学習に限ったことではない。あらゆる学びには時間がかかる。いったん学んだと思われる事柄も、時を経て新たな経験をするにより、異なる視点で自分自身の中に生まれ、言語的にも内容的にも理解が深まることもある。

私がキング牧師の名演説「I Have a

Dream（私には夢がある）の録音を初めて聞いたのは、中学3年生の英語の授業だった。当時は、中学生なりに分かったつもりでいたのだが、演説中に出てくる英語表現が、「独立宣言」やリンカーンの「ゲティスバーグ演説」をふ



リンカーン記念堂（執筆者撮影）

またものだということを理解したのは大学時代だった。さらに、演説が行われた情景が目には浮かぶようになったのは、ジョージタウン大学大学院（アメリカ・ワシントンD.C.）に留学中の2022年に、キングが演説を行ったリンカーン記念堂を実際に訪れてからであった。リンカーン記念堂の階段を上ると、キングが約60年前の演説時に立った位置には「I HAVE A DREAM」と刻まれている。近くにある博物館にはキングが演説時に持ち込んだ原稿が展示してある。実際にキングが演説をしたその場所に身をおいて初めて、演説を少しばかり深く「分かった」と感じたのである。

外国語学習を考えると、「効果的で効率的な学び」を追究することは確かに大切で、外国語教師として常に意識したいことである。しかし全く同時に、慶應義塾一貫教育校だからこその、必ずしも「即効性がない学び」も重要なのではない。すなわち、高等学校を卒業して数年後もしくは数十年後、外国語の授業で学んだ題材について何らかのきっかけで振り返ることがあったときに、言語面でも内容面でも深みが増す——そのような題材を通して外国語を学べるような授業を構成することが大切なのではないかと考えているところである。

<sup>\*</sup>和泉伸一（2016）『第2言語習得と母語習得から「言葉の学び」を考える』アルク